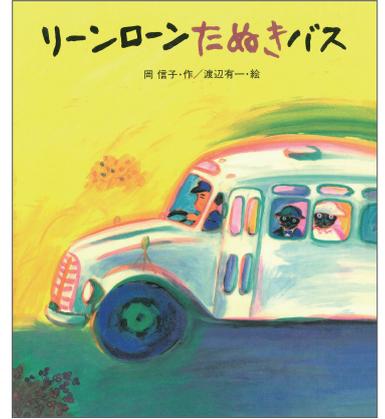




「ぼくの わたしの すきな 本」



こんな本だよ



(出版社:岩崎書店)

まず、のはらであそんでいたたぬきが山みちを走っているバスの中からボタンをおす音を聞きつけて、お母さんにおねだりして、バスにのせてもらいました。ボタンをおす、「リンロンリンロン」という音にゆったりしていたので、かおがたぬきのかおにもどってしまいました。うんてんしゅがしゅうてんのところについたとき、「まあ、すみかの中を走らせてもらっているんだからまあいいか。」といいました。

この本のこころがすき!

バスのうんてん手さんが、さいごに「石ころのお金でも、すみかを走らせてもらっているからまあ、いいか。」といったところがすきです。わけは、うんてん手さんが自ぜんに「ありがとう。」をしないとけないのに、バスを走らせてもらって、そのかんしゃをたぬきにあらわしているバスのうんてん手さんのやさしさがあらわれているからです。

本の名前

リンロンたぬきバス

本を書いた人

岡 おか 信子 のぶこ (作) さく / 渡辺 わたなべ 有 ゆう (絵) え

バスの停車チャイムにあこがれるたぬきさん。バスの旅に出發するよ。ふんわりとした色使いのさし絵をとおして、運転手さんの優しさや、たぬきさんのワクワク感がえがかれているね。

